

第1回 福井市都市再生緊急整備地域 準備協議会 議事録（概要版）

| | |
|----|-----------------------|
| 件名 | 第1回福井市都市再生緊急整備地域準備協議会 |
| 日時 | 平成30年3月23日 13:30～ |
| 場所 | 福井市役所7階 第1委員会室 |

出席者

【準備委員会構成員】

嶋田委員、南保委員、佐野委員、寺元委員、奥山委員、太田委員、兵動委員、猪嶋委員、堀内委員、港道委員

【事務局】

桑原都市整備室長ほか5名

議事次第

1 開 会

2 委嘱状交付

3 挨拶

4 議 事

（1）都市再生緊急整備地域として政令指定すべきエリア（素案）について

（2）都市再生の目標・方針となる地域整備方針（素案）について

5 閉 会

議事内容

（各委員からの意見）

・福井は新幹線開業を控えており、今、一番活気があり、よい時期であり、福井を都市再生緊急整備地域の日本海側の最初の地区にしたい。

・都市再生は行政だけでやっても駄目で、投資を呼び込むために福井に期待感を持つような福井の得意とする文化、歴史、産業などの魅力を発信しなければならない。

・まち、ひと、仕事はセットである。繊維も、復活している。化学繊維の力は図抜けているので、駅の周りに埋め込んでいったほうがよい。

・福井市のブロック計画ではなく、広域で考え、アジア、世界から見た福井、日本海側から見た福井をアピールする必要がある。雪はアジアにとって貴重であり、日本には大陸と決定的に違う工芸品、歴史がある。

・福井は拠点性があり、永平寺、スキージャム勝山、敦賀港からのクルーズ船の観光客を呼び込む、金沢等との都市間連携が必要。

・人口減少を強調しすぎている、所得を増やし経済を良くすることを考える方がよい。金融構造自体が変化してきており、クラウドファンディングのような、人々の思いがお金に入る投資・融資の新しい形がある。

・地元の大学と連携して、サテライトキャンパスを再開発のところにしようとするとうまくいく。

・インバウンドを考えると京都、金沢などの都市間競争に打ち勝っていく必要がある。

・拡散するハブと集約するハブとしての福井市ということを考えるべき。永平寺やスキージャム勝山、恐竜博物館につないでいくハブとして、その世界がイメージできるものを作り込んでいかないとけない。

・もう少し幅広く県都としての福井市に集約させるような仕組み、仕掛けというのが必要である。を考えていかなければならない。

- ・ P P F、 P F I などの官民連携を図る一方、民間中心の再開発で、民間としてどう地域を盛り上げるか。
- ・ 福井県の生産性が低い。これをどう変えていくかということが第一の命題で、この地域を拠点にどう全国、世界に福井の持っている強み「ものづくり（眼鏡、繊維、プラスチック）」をどう拡散させるのか。あるいはそれに関する情報をどう集約することがプラットフォーム化の一つ。
- ・ 関西圏との繋がりは深いですが、関東圏、中京圏との繋がりをいかに増やしていくかが課題である。
- ・ 新幹線は敦賀と福井は同時開業になり、歴史的に見ると敦賀は大陸との拠点であり、グローバルな都市である。国鉄、鉄道網も整備されてきた。そういったすばらしい歴史を持つ敦賀と福井がどう連携して優位性をいかに高めていくか。そういった拠点性をどう作り上げるかを考えていかなければならない。
- ・ 福井県内製造業の下請け率が変化し、自立化が進み、下請けからは脱却し、独自の製品を持って生きてく方向に変わってきた。そんな変化を捉えて、ここの拠点化とこの強みを更に活かしていくということ
- ・ 福井市は製造業の割合が全国的にみても非常に高い。
- ・ 付加価値の高い都市型産業を中心部に集積させる。
- ・ 福井市だけでなく福井県での拠点性、中心であるというところを盛り込んだほうがよい。
- ・ 日本全体からみての福井のイメージを提示したほうがよい。共働きで働きやすい環境、親御さんが近くにいるという生活スタイルで、教育県と言われるくらい優秀な方がたくさんいる。これからの日本が向かうべきスタイルである。
- ・ 永平寺、東尋坊、恐竜博物館等の観光地と福井駅周辺エリアとの連携が必要である。
- ・ 地域の繁栄には鉄道とバス、観光、地域住民との連携が重要である。
- ・ 福井のモノづくりというキーワードをインパクトのある形にして「福井ではこれが体験できる」ということをどのように発信していくかが重要。
- ・ 外国人観光客はツアー型から個人旅行型に変わってきており、個人旅行客に楽しんでもらうことが必要。
- ・ 経済は大事だが、お城の周りは、経済的にはなかなか難しいエリアであり、経済的な機能はどこで何をやるか。商業の集積が大事なので、どう組み合わせるか。普通のビジネスと第2次産業の本社機能と商業との配置検討が必要である。
- ・ 地域住民、観光客、ビジネスマン等、ターゲットにしたい人は誰なのかを絞り込んだほうがよい。
- ・ 新幹線開業を迎える福井駅のエリアを広く捉え、年間100万人来場する恐竜博物館の客へ目を向けるとおもしろい。
- ・ 福井駅周辺に交通を結節させている、人口減少が進むと県内の周辺地域の高校が福井市内に集約される。バスしかない路線をどのようにして守っていくか。そして福井駅周辺が通学生たちのターミナルになるというようなことを進めていかないといけない。このエリアというのは福井県にとっても非常に重要なエリアになる。
- ・ 永平寺では、えちぜん鉄道の永平寺口駅から大本山永平寺の門前までの6キロ区間の自動走行を2020年の事業化を目標にしている。産業技術総合研究所は電磁誘導線方式、パナソニックはレーザーやセンサーで識別する方式で実証実験を行っている。
- ・ 民間主体のまちづくりを支援する体制を整えていきたい。
- ・ まちづくりに対する機運醸成が民間・行政で十分調整できていないので、委員の方々の意見をいただき課題解決に取り組んでいきたい。
- ・ 福井市はモノ消費からコト消費に変わっている、福井駅から西口をつなぐ中で周辺部も含めて体験型の観光をしてもらう。

- ・ 宿泊についても、外国人観光客も視野に入れ、高級感がある宿泊先を醸成していかなければならない。
- ・ 来年4月の中核市移行を目指し、周辺市町と連携していく。今後は、さらにエリアを広げた観光連携の計画を策定する。
- ・ IoTとかAI関係の企業の誘致にも視野を入れながら、助成金の制度についても充実させる。未来投資促進法に基づくエリアなども策定しながら、先進的な企業の誘致、起業の支援メニューを毎年見直し、新たな熱意のある方の起業を呼び起こしたい。

以上